

やまなし産業大賞 応募について

1 表彰部門・賞の種類

【ものづくり大賞部門】

製品・技術等であって、新規性・独創性、技術的完成度、市場性、成長性などに優れた画期的なもの
ただし、販売・提供開始した年月が5年以内

【経営品質大賞部門】

お客様満足と競争優位を実現する経営の仕組みを有し実践している企業等

○部門ごとに、次の賞が授与されます。なお、賞には、該当がない場合もあります。

【ものづくり大賞部門】 大賞1件 <賞状、記念品、奨励金20万円>

優秀賞2件 <賞状、記念品、奨励金10万円>

【経営品質大賞部門】 大賞1件 <賞状、記念品、奨励金20万円>

優秀賞2件 <賞状、記念品、奨励金10万円>

2 応募の要件・審査の基準等

詳細については、募集要項か、県庁ホームページでご確認ください。

<http://www.pref.yamanashi.jp/seichosng/sangyo-taisho/bosyu2015.html>

県庁トップページ → [しごと・産業](#) → [補助・支援](#) → [商工業・サービス業](#) →

[その他支援制度等](#) → 平成27年度やまなし産業大賞の募集について

3 応募方法

・部門ごとの応募申込書に必要事項を記入の上、平成27年8月7日(金)までに必着するよう山梨県産業労働部成長産業創造課までご持参いただくか、お送りください。ただし、応募期間中であっても、土日祝日には持参による受付は行っておりません。

・応募は、自薦・他薦を問いません。

・応募書類は、返却いたしません。

○応募申込書の様式は、県庁ホームページからダウンロードできます。

4 応募期間

平成27年7月1日(水)～8月7日(金)

5 審査、表彰式

・ご提出いただいた書類により第1次審査を行います。

【経営品質大賞部門】では、評価員が応募企業等の事業所へ現地調査に伺い、インタビュー調査を行います。

・第2次審査に当たっては、直近の決算書を提出して頂くとともに、審査委員会においてプレゼンテーションを行っていただきます。

いずれも、第1次審査通過企業に対して日時等の連絡をさせていただきます。

・表彰式は、平成27年11月19日(木)に「山梨テクノICTメッセ」(開催期間 平成27年11月19日～21日)会場内において開催する予定です。

6 専門家による助言サービス(経営品質部門)

・希望される場合は、審査員を務める専門家から、経営に関する助言を受けることができます。

・助言サービスは11月下旬以降を予定しており、対象企業は経営品質大賞の応募企業です。

※希望企業が多数の場合は抽選で決定させていただきますので、予めご了承ください。

書類提出・問い合わせ先

山梨県 産業労働部 成長産業創造課 新市場獲得・経営革新担当

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内一丁目6番1号

TEL 055-223-1544

平成27年度

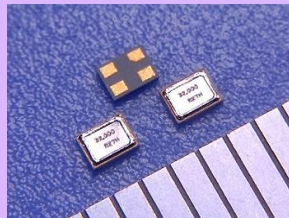
やまなし産業大賞

応募受付期間：平成27年7月1日～8月7日

山梨県では、どこもマネのできない優れた技術やホットな製品をもっている企業、顧客へ新しい価値や生活を創造・提案し続ける経営を行う企業などを顕彰することで、他の企業の目標となっていただけ、県内産業を元気にするため、第7回やまなし産業大賞の募集を行います。自薦・他薦は問いません。ふるってご応募ください。

【ものづくり大賞部門】

製品・技術等であって、新規性・独創性、技術的完成度、市場性、成長性などに優れた画期的なもの



●H26年度を受賞企業

【大賞】

- 株式会社クロスフォー（甲府市）
Dancing Stone®（ダンシングストーン）

【優秀賞】

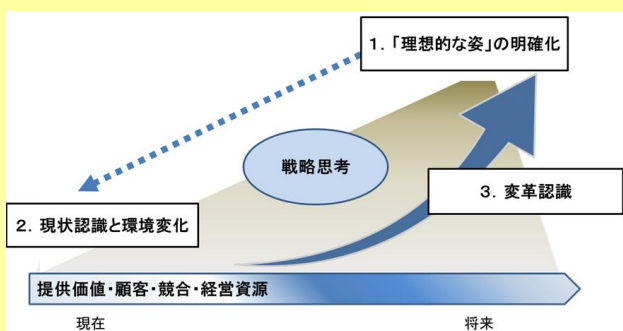
- リバーエレテック株式会社（韮崎市）
世界最小・最薄水晶振動子の開発
- 株式会社スワ（富士吉田市）
微細加工技術及び陽極酸化技術を活用した生体用インプラントの開発

【審査委員奨励賞】

- 上野電子株式会社（韮崎市）
給水タンク式自動製氷機CoolLee（コーリー）

【経営品質大賞部門】

お客様満足と競争優位を実現する経営の仕組みを有し実践している企業等



出典：2015年度版日本経営品質賞アセスメント基準書

●H26年度を受賞企業

【大賞】

- 株式会社フレアス（甲府市）

【優秀賞】

- ニューロン製菓株式会社（甲府市）
- NPO法人子育て支援センターちびっこはうす（甲府市）

【審査委員奨励賞】

- 株式会社クリーニング志村（甲府市）

○平成26年度受賞企業の声

- ・元々のお客様からの信頼が厚くなったと感じている。 ・受賞商品ということで、営業用ツールとしては心強い。
- ・事業全体を整理することができた。 ・販路開拓と新製品の開発においても事業を進めやすくなった。
- ・あらためて自らの価値について見直すきっかけとなった。
- ・金融機関をはじめ、他業者からたくさんのお祝いの連絡をいただいた。